

## わん曲集成材でらせん状滑り台

現在、屋内用の大型遊具は幼稚園などの施設でしばしば見受けられる程度で、広く普及してはいません。しかもそれらの多くはプラスチック、あるいはスチール製品です。これらの材料に比べると木材のもつぬくもりや肌ざわりの良さ、弾力性などは、特に寒さの厳しい北国にとって幼児むけの遊具素材としてたいへん優れたものといえます。

林産試験場は、これまでも各種の木製遊具の開発を行ってきましたが、その多くは直線的あるいは平面的な部材を組み合わせたものでした。今後の木製遊具の発展を考えると、わん曲材を用いた遊具の開発が重要な課題となってきます。このため、らせん状滑り台のデザイン開発にあたっては、木製遊具作りに優れた実績のある伊藤英二氏（木工塾といこうぼう主宰）の提案を積極的に取り入れ、わん曲集成材の製造技術を応用し作製しました。

なお、完成した滑り台は西興部村の新山村振興計画による総合交流促進施設「森の美術館“木夢”」内に設置されて（林産試験場 加工科）

